平成21年度　市長との対話会（タウンミーティング）花見川区会場　議事録

日　　時：平成２１年１２月６日（日）　１０：００～１２：００
場　　所：花見川区役所　講堂
参　加　者：７４名

■開会
【原企画課長】
　それでは定刻となりましたので、ただいまより、市長との対話会、テーマは 10 年後、20 年のまちづくりの方向性について、を開催させて頂きます。
　本日の進行を務めさせて頂きます、千葉市役所企画課長の原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
　まず本日のスケジュールでございますが、はじめに市長より、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況につきましてご説明させて頂きます。
　その後、市長とご来場の皆様方との意見交換会に入らせて頂きますので、よろしくお願いいたします。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

■市長からの説明　テーマ『10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性』について
【熊谷市長】
　皆様おはようございます。日曜日の午前中のお時間にこうしてお集まり頂きまして、まことにありがとうございます。
　私が市長に就任をいたしましてもう少しで半年になりますけれども、今何をしているかと言いますと、10 年後に向けた基本計画、千葉市の 10 年後をどうしていくのか、そういうことについて基本的な計画を作っていこうとしております。それにあたって、市民の皆様方が、どういうような千葉市に将来していきたいと願っていらっしゃるのか。そして、その中で、市民の皆様方がどういう役割を果たしていきたいとお考えになっているのか。そのことについて、今回はお話をしたいということで、「10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性」というテーマでお話をさせて頂きたいと思います。
　市長と市民の意見交換会ですので、市長に対していろいろ言いたいことがあるという方も、個別の問題についていろいろ言いたいことがあるという方も多いと思いますけれども、今回は、10 年後、20 年後のまちづくりというテーマでの意見交換ですので、個別の陳情・要望というものは、極力ご遠慮頂きたいと思います。後半、最後の方の質疑応答のときに、時間があれば、そのお話も伺うことにはいたしますけれども、そういう趣旨だということを、恐縮ですけれどもご理解頂ければと思います。
　それでは、ご説明をさせて頂きます。

　まず今日の説明の流れですけれども、まず一つ目に、先ほど申し上げた基本計画、これがそもそもどういうものかということを、お話させて頂きます。
　その次に、その基本計画を作るにあたって、共通認識を持たなければいけませんので、ま

ず千葉市がどういう状況にあって、そしてこれからどうなっていくのか。人口の問題、お金の話、お金がなくてもできることはありますけれども、お金がなければなかなかできないことがたくさんありますので、まず、千葉市のお金の状況がどうなっているのか、そのことについてもお話をさせて頂きます。

そして、今、千葉市は非常に厳しい状況になっておりますので、どういうふうに、これから財政を健全化させていかなければいけないと考えているのか、私たちの考え方について、お話をさせて頂きます。

そして最後に、ここが本題となるわけですけれども、そうした前提条件の共通認識をお互い持ったうえで、これから 10 年後、20 年後の千葉市というのは、どうしていくべきなのか、その点について、私の方からお話をさせて頂きたいと思います。

まず、基本計画の策定についてということです。

基本計画というのはそもそも何だ、という話です。行政ですから、中期的な、もしくは長期的な、ある程度長いスパンでの計画を持って、毎年のお金の使い方なりを決めております。

まず、基本構想ですが、これは一番大きな理念の部分です。例えば、住んでいて良かったと思えるまちにしようとか、誇れるまちにしようとか、環境にやさしいまちにしようとか、非常に大きな方向性を作っているのが、この構想であります。

これを受けて、基本計画という、今は「ちば･ビジョン２１」という、平成 13 年から 27 年の 15 年間を対象にした基本計画を持っております。しかし、これが平成 13 年からのスタートですから、もう既に、だいぶ違いが出てしまっています。時代が大きく変わっていく中で、前提としているものがさまざまに変わってきていますので、見直しをしていかなければいけないということで、今回、ここの見直しに取り組んでいるところです。ここで、構想を受けて、具体的にどういうまちの方向性を作るのかということを、この基本計画で決めます。

そして、それを受けて、実施計画というものがあります。この実施計画というものの中で、具体的に、数年間でどのようなものを作ったり、どういう制度を作っていったり、どういう基盤を作っていったり、そのためにどれくらいのお金をかけようとするのかというものを決めます。その実施計画が、今は第２次５か年計画の期間で、平成 18 年度から 22 年度の５年間が対象ですけれども、ここも、５年というのは、今の激変の時代、激動の時代にあっては、５年前とはだいぶ違ってしまうことがたくさんあるものですから、この５年間という期間も、３年くらいの短い期間にしなければ意味がないのでは、という議論を、われわれの中ではやっております。

では、基本計画の策定にあたって、どういうことを考えていかなくてはならないのかということです。まずは、人口減少社会の到来であります。これは、少子高齢化、人口が減っていくといろいろ言われておりますけれども、本当に大変なことでして、千葉市にとっても、日本にとっても、人口が減少するという歴史は、今までなかったわけです。そういう意味においては、日本の歴史始まって以来、2000 年以上の歴史の中で、初めて、人口が減少する中にあってのまちづくりというものを考えていかなければいけない。初の体験を私たちはしなければいけないということです。そうなると、今までの基本的な考え方、それから、まちづ

くりの考え方、全てが変わってきますので、まずそこを押さえなければいけないということです。

それから、地球の温暖化が本当の意味で待ったなしになってきますので、環境問題について、やはりわれわれも真剣に、ひとつの都市として考えていかなければいけないということです。

そして、分権型社会への移行ということで、今、国からどんどん地方分権が進んでおりますけれども、そうなると、市で決められることが増えてきます。そういうものに対応していかなければいけませんし、また、市で止まるのではなくて、さらにもう少し下の段階に分権していかなければ、多様化する市民の皆様方のニーズにも応えられないという、そういう考え方も大事になってまいります。

それから、少子高齢社会です。これも、人口減少と少しかぶってきますけれども、高齢化が急速に進んできますので、今度こそ、10 年間の計画で初めて、しっかりと見据えたうえで計画を作らなければならないということです。

それから、集約型都市構造への転換ということで、少し言葉が難しいですけれども、よく言われているコンパクトシティというものです。今までのまちづくりというのは、人口が増えてきたということもあって、膨張が前提でした。今まで道路がないところに道路が引かれ、今まで建物が建っていなかったところに建物が建つ。それが当たり前だったと思いますけれども、人口が減少するということは、今まで道路を必要としていたところが必要なくなってしまったり、建物が建っていたところが更地になったりする。そういうことが平気で進んでくる時代になります。そういう時代の中にあって、もっとコンパクトにまちを作っていかなければ、膨張を前提に作ってしまうと、取り残される陸の孤島がたくさん出てくるということですから、そういうことも考えて、まちを作っていかなければいけないということです。

それから、市の財政状況の悪化ということで、とにかく、今までの右肩上がりの経済成長の中では、お金は毎年増えていきましたから、それを使うという考え方でした。これからは、ある程度お財布の中身は限られてきますので、賢い使い方をしなければいけない。限られたお金をどう工夫して使っていくのかという考え方に、立たなければいけないということです。

こういう今までと全く違う前提条件の中で、これからのまちづくりを考えていかなければいけない。そういう意味では、初の基本計画を作っていかなければいけないという時期にきております。そこには、行政だけが決めるのではなくて、多様な主体、市民であったり企業であったり NPO や、まちづくりを支える人たち、そういった全ての方々が入れることが大切です。それから、ここは花見川区ですけれども、それぞれの区の、花見川区なら花見川区の特徴を活かしたまちづくりをしていくということが必要になります。

今、どういうスケジュールで動こうとしているのかと言いますと、現基本計画の見直しをして、平成 24 年から平成 33 年度の、この 10 年間を新たな基本計画の期間にしております。今までは 15 年間でしたけれども、やはり 10 年間くらいにしないと少し長すぎるだろうということで、10 年です。

今年の 10 月に、基本計画を作るための本部を、市役所の中に設置いたしました。そして、11 月から 12 月と、このタウンミーティングを各区で、この花見川区が最後ですけれども、６区全てで行います。このタウンミーティングは、ガス抜きでも何でもございませんし、ま

たこれで終わりでもございません。これだけでは、とても市民の意見を聞いたわけにはなりませんし、また、市民にも考えて頂いたということにはなりませんので、この後、来年の１月から５月に、市民のワークショップをやりまして、もう少し少人数で、もっと意見を出し合って頂いて、深い議論をして頂くことを考えております。

そうしたものを経まして、８月、来年の夏に、計画の原案を作成します。ここで、この原案を、審議会、これはまちづくりの専門家であったり、もしくは学識経験者ほか、まちづくりを支えるさまざまな主体の入った審議会にかけまして、再来年の２月くらいまで議論をして頂きます。その議論を受けて、４月くらいに、ある程度案を固めまして、パブリックコメント手続きという、全ての方から広く意見を募集する手続きをやりまして、再来年の６月に計画を策定すると、こういう１年半をかけたスケジュールになっています。

短いという方もいらっしゃるし、長いという方もいらっしゃいますが、一番大事なことは、基本計画の中に、この１年半の期間で、市民の皆様方の思いを取り入れていくというのももちろん大事なことです。けれども、それ以上に大事なことは、この期間を通して、市民の皆様方も、まちづくりに対して主体的にお考えを頂くこと、つまり、自分自身または自分の身の回りの人たちと、千葉市ってどういうまちにしていけばいいのか、市民と行政の関わり方というのはどうあるべきなのか、やはりそういうことをこの期間に話し合って頂くことが、最終的な 10 年、20 年の千葉市のまちづくりのために、一番大事だろうと思っておりますので、そういう機運を盛り上げる期間だと、私は思っております。

それでは、まず千葉市が今どういう状況にあって、これからどうなっていくのかについて、お話をさせて頂きます。

社会経済情勢の変化は、先ほど申し上げたとおりですので、説明は省略します。

まず、人口がどういう状況になっているかですけれども、今、千葉市の人口は、95 万６千人です。千葉市の人口は一気に増えてまいりまして、今の感じですと、平成 27 年度に 97 万人にまで増えます。昔は 100 万だという話がありましたけれども、だいたい、97 万で止まるだろうという見込みになっております。その後は、人口がこういう形で減りまして、平成 47 年には 88 万人まで減るだろうと、そう見込まれております。これでも他の市に比べれば人口の減少スピードというのは遅い方でございますけれども。

これは、千葉市にとっては大きなことで、先ほど、日本の人口は増え続ける歴史しかなかったと申し上げましたけれども、特にこの千葉市は、戦後異常な速度で人口が増えてきましたから、人口が増えなくなるということは、ものすごいインパクトです。戦後、県庁所在地の中で、最も人口が増えているのはこの千葉市です。それだけ、戦前までの蓄積がない中で、一気に、ここまでの人口になったということですから、これは他の都市よりもさらに人口が減少することに対して、備えておかなければいけないということです。

ですので、どうしてもここまで人口が一気に増えてしまうと、これからも人口は増えるだろうという考え方になってしまいますが、この考え方に立ってしまうと、将来、乖離の中で苦しむことになりますので、しっかりと、的確に着地していかなければなりません。

少子高齢化の中でどうなっていくのかですけれども、昭和 55 年には 65 歳以上の方が５％しかいなかったんですけれども、平成 17 年には 16.6％、これが平成 27 年には 25.1％、そして、平成 47 年には 33.2％ということで、３人に１人が 65 歳以上という時代がやってまいります。

これは、非常に大きなことで、働く人が減るというのはもちろんですけれども、こういう 65 歳以上の高齢者の方々を、守る対象としてだけ考えるのではなくて、逆に言えば、これを大事な資産だと置き換えて、65 歳以上の方々に、どれくらい知恵と、そしてお力を発揮して頂けるかというのも、プラスの価値として考える必要があるということだと思います。

これはちょっと細かいグラフですけれども、全国で社会保障費がどう増えているかということを示しています。社会保障費は、年金、医療、介護ですとか、そういう社会を支えるために必要なコストです。これは棒グラフを見て頂ければわかるとおり、増え続けてきているわけです。

注目して頂きたいのは、この黄緑色の折れ線グラフです。これは、国民の所得に占める社会保障費の割合です。収入のうち、どれくらいが先ほど申し上げた、社会を維持するためのコストにとられているかということですけれども、所得が増えても、それ以上に折れ線グラフが伸びているということは、国民の所得が増えている以上に、社会保障費の方が増えているということです。少子高齢化ですから当然ですけれども、こういう形で、これからもこの比率が上がってきます。お金の中で、社会を維持するために使わなければいけないコストの割合が、どんどん増えてきますので、自由に使えるお金がどんどん減ってきます。それを前提にしなければいけないということです。

それをならしたものが、この棒グラフです。確かに、年金も増えて、医療も増えて、福祉も増えるということです。そういう中でまちづくりを考えていかなければいけないということです。

そうした中にあって、千葉市のお財布状況がどうなっているのかというお話です。千葉市は政令指定都市に移行して 17 年目を迎えておりますけれども、政令指定都市に移行してから、非常に急激に都市基盤を整備してきました。都市基盤というのは、下水道だったり、道路だったりという、さまざまな施設です。そうしたものを、急速に普及させてまいりましたので、例えば下水道の普及率も 97％を超えており、そういった意味では、政令指定都市に移行したのは比較的遅かったですけれども、都市基盤に関しては、いまや政令市の中でも遜色ないレベルにまで達しています。戦後急激に発達した、いわゆる遅れてきた大都市ですけれども、都市基盤の整備は、ある程度追いついてきているということです。

ただその一方で、借金も一気に増えまして、今や１兆円を超えています。都市基盤の整備にともなって、借金は非常に増えました。その結果どうなっているかといいますと、今ちょうど来年度の予算編成をやっておりますが、270 億も足りないということになっています。これだけお金が足りないというのは、千葉市の歴史上初めてでございますので、それだけお金が足りない、借金の返済が重すぎて、お金が足りないという状況になっています。

今までは、お金が足りなければさらに借金ということを、ずっとやってきたわけですけれ

ども、このままそういうことをやっているとどうなるかと言いますと、実質公債費比率という、これはちょっと難しい言葉ですけれども、簡単に言うと、１年間の収入のうち、どれだけ自動的に借金を返すためにとられているかということで、借金で首がまわらない度と私はよく言うんですけれども、これが、25%をもう少しで超えてしまうというところまできています。平成 24 年に、25%を超えてしまいそうなんです。この 25%を超えるとどうなるかと言うと、早期健全化団体、早く健全化しないと危ないですよという、そういう団体に国から指定されてしまいます。簡単に言うとイエローカードです。夕張市というのは、財政再建団体というレッドカードです。まあレッドカードにはならないですけれども、まずはイエローカードが出てしまうということです。

そうなると、大都市の中では千葉市が初めてですから、新聞の一面に、千葉市は大都市で初めて転落しましたよ、という報道が流れるかも知れません。千葉市ショックなんて言われるかも知れません。そうなると、住む人もいなくなりますし、人が逃げてしまいますから、それはできれば避けたいということで、何とかこの 25%ではなくて、この赤い方のグラフにしなければいけないということで、財政再建が本当の意味で待ったなしに来ているというのが、今の千葉市の状況であります。

では、その財政を、どのように建て直していこうとしているのか、ということについて、お話をさせて頂きたいと思います。

ご存知の方も多いかもしれませんけれども、10 月にわれわれは「脱・財政危機」宣言というものを出させて頂きました。

このままいくと財政危機に陥るので、何とか脱出しなければいけないという、そういう決意を込めた宣言であったわけですけれども、具体的にどういうことをしていかなければいけないのかと言いますと、まず市税を徴収する率を上げていかなければいけません。これはどういうことかと言うと、千葉市は、税金を納めて頂かなければいけない方々から、ちゃんと税金を取っている率が、政令市の中で断トツの最下位でした。それだけ、お金を取らなければいけないのに、取れていなかった自治体です。もちろん、払えない人に対して払えと言っても無理ですので、減免措置であったり、分割払いであったり、さまざまなきめ細かい措置をやっていかなければいけないんですけれども、払えるのに払っていない方を放置してしまうと、真面目に払っている人たちが、その人たちの分を負担していることになりますから、非常に不公平な話になるわけです。ですから、数年前から取り組んでおりますけれども、さらに徴収について取り組んでいって、真面目に払っている人が馬鹿をみないようにしなければいけないし、そういう意味で増収をしていく、払ってもらっていなかったお金をちゃんと回収するだけでも、何億円という増収になりますから、これは本当にしっかりやっていかなければいけないということです。

それから、資産を有効活用しなければいけないということです。役割を終えた施設とか余っている土地があったら、そういうものは売却、この時代なかなか売却できないんですけれども、売却していかなければいけないし、もしくは民間に委ねられる施設があるんだったら、それも渡していってスリム化していかなければということです。

それから、受益者負担の適正化です。これは、簡単に言うと値上げです。ただ、一気に夕

張市みたいに無茶苦茶な値上げをするつもりはありません。ただし、適正な料金は取らなければいけないと思っています。例えば、下水道の料金は政令市の中でも安い方です。ですので、それをほんの少し上げさせて頂きたい。あとは、今、コミュニティセンターを借りるのが無料ですが、他の市を見て頂ければわかるのですが、無料にしている市はそれほど多くはありません。いきなり５千円取るとか、そういう話ではなくて、電気代とか、そういう最低限の料金だけは取らせて頂きたいということで、そういう意味では、コスト意識というのを市民の方々にも申し訳ないけれども持って頂きたいということです。必要以上にお金を取るつもりはありませんけれども、他の市に比べればおかしかった料金は、見直さなければいけないと思っています。

それから、支出の抑制ということです。お金を使わないようにするために、まず、人件費の見直しをしなければいけないと思っています。市民の皆様方に幾ばくかのご負担をお願いするのであれば、まず、市役所自身が身を削る必要があるだろうということで、私と副市長の給料に関しては、10 月から大幅にカットしておりますけれども、私や副市長だけが頑張っても意味がありませんので、やはり市役所全体として、人件費の見直しをしていかなければいけないだろうと思っております。これは、来年度から真剣に考えていかなければいけないと思っております。

それから、民間機能の活用ということで、民間でできるものは、民間に委ねていくということです。民業を圧迫せず、民間でできるものは民間でやっていく、もしくは、市民の皆様方にできるものはどんどんお願いしていく、そういうことをやっていかなければいけません。

それから、外郭団体の統廃合ということで、千葉市にも幾つか外郭団体があるんですけれども、役割を終えた外郭団体ですとか、必要性が乏しくなってきた外郭団体を、やはり統廃合していかなければいけないだろうということです。それから、OB の派遣ということで、広義の意味では天下りですけれども、そういうものも見直しをしていかなければいけないということです。私は、市の OB の人たちが外郭団体に行くこと全てを、悪と申し上げるつもりはございません。市の行政のことをよく知っている人が、能力のある人が、行くということは決して悪いことだとは思っていませんけれども、少なくとも、ポストを作るためにやってしまったものとかがあるのであれば、そういったものは見直しをしていかなければいけないということです。

それから、事務事業の徹底した見直しということで、この前、国の方で事業仕分けが終わりました。千葉市でも同じように、事業仕分けのようなものをやっております。それで、外部の方、民間の方から見て、今までわれわれがやっていた仕事が、必要なのか必要でないのか、まず見てもらう作業をやっております。やはり、今まで市役所は、市役所でなくてもそうですけれども、仕事を作っていく、増やしていくという時代でしたけれども、これからは先ほど言ったような状況ですから、もう一度仕事をゼロから見直しをしていって、必要性がなくなった、歴史的な役割を終えたものは、見直しをしていかなければ、本体が倒れてしまいますので、スリムな体質に生まれ変わらなければいけないということです。

それから建設事業の厳選ということで、これは公共事業の見直しです。公共事業全部を止めるわけにはいきませんので、それでは千葉市の活力が削がれてしまいますので、どういう考え方で見直しをするかと言いますと、もう少しで道路が開通するとか、もう少しで施設が完成するとか、そういったものについては優先的にお金をつけていくということです。そう

ではなくて、例えば土地の買収率が５％だとか、作るのにあと 20 年、30 年かかるようなものについては、苦しい期間、この３年なり５年くらいは凍結する、そういう決断をしなければいけないだろうということで、選択と集中をしていかなければいけないと考えております。

こういう考え方のもとで、今、行政改革推進プランと、それから財政健全化プラン、これらを来年の３月までに、作る予定になっております。よく言われるんですけれども、この脱財政危機宣言というのは、ここからがスタートです。今まで千葉市の財政が危ないというのは、市民の皆様方も正しく知らなかったし、職員自身もほとんど知らされてこなかったわけです。ですから、予算を作る中でも、自分たちの会社が危ないという自覚なしに予算を作ると、全然意味がないものになってしまうので、予算編成をするにあたって、こういう状況になっているんですよと、一人ひとりが仕事を考える中で、ちゃんとこういう前提の中で作ってほしいということで、この宣言を出しているんです。そういう意味では、ある意味、身内向けでもあるわけです。職員向けにも出したところがあります。これを受けて、今われわれは、プランの策定を進めているところであります。

行政改革推進プランでは、具体的に何をするんだということです。期間は、来年度から平成 25 年度までの４年間が対象です。内容は、まず計画的な財政運営ということで、今までこういう長期的な計画を、本当の意味でちゃんと見つめてこなかったからこういうことになっているわけですから、しっかりと計画的に財政運営をしましょうと、当たり前の話なのですが、まず当たり前のところをやろうというところです。

それから、簡素で効率的な行財政運営ということです。余計な仕事をしていないか、市民や民間にできることを、コストの高い市役所がやっていないかどうかということを、もう一度考えてスリムにしなければいけないです。

それから、財政基盤の拡充、強化ということです。先ほど言ったように、ちゃんとお金を徴収できるようにするとか、自分たちでしっかりと立っていける財政の体力をつけていきましょうということです。

それから、市民とともに構築し、市民に信頼される行政運営ということです。とにかく、それだけ厳しい状況になってくると、行政だけでまちを運営するのはコストが高くつくし、また市民の意見とずれてしまいますので、極力、市民の皆様方と一緒になって作っていくシステムを、作っていかなければいけないということです。

それから、市民の視点による行政サービス向上ということです。市民の視点に立って、何が市民にとって必要なのか、そういう視点を忘れてはいけない、これは現場主義だと思いますけれども、そのようなことをやっていきたいと考えております。

そうなると、新たな執行体制ということで、そういう市民ニーズに沿った運営をするということは、市民ニーズに一番接する区役所であったり、現場のところにどれだけ権限と予算が配分されるかということです。市役所の机の上で全てを決めるのではなくて、より現場のところで決めていけるような、そういう体制を作っていかなければいけません。

そして、こういうことやるために大切なのは職員ですから、職員の能力、意識、またはモチベーションというものを、向上させていかなければいけません。そういう人材の育成であったり、登用制度なりをもう一度、見つめ直さなければいけないということです。

こういったことを、これから、プランを作って進めていこうと考えております。

ここまでが、少し長かったですけれども、考えていかなければならない前提条件です。
ここからが、本題です。

これからのまちづくりのあり方についてお話します。
まず、日本全体に言えることですし、千葉市は特にそうかも知れませんけれども、今までのまちづくりの考え方というのは、国が決めたものを県で受け取って、そして県が決めたものを市で受け取って、そして市が決めたものを自治会であるとか地域のコミュニティにお願いしたり、市民にお願いをするという、こういう流れだったと思うんです。しかし、これは本当の姿ではないと、私は思っています。
例えば、地方分権の議論を国でやっておりますけれども、あれも本来はおかしいと思っているんです。あれは、今、国がやっている仕事を、どれが出せるか、落とせるかという議論です。結局、国が決めているわけです。そうではなくて、国や県や市がやっている行政の仕事を、全部垣根を取り払って並べてみて、まず現場に近い市がどれだけできるか、どこまでできるかということを考えて、それで、市ができないものを県がやって、県ができないものを国がやると、本当はそういう流れで地方分権というのは考えないと、どうも上からお仕着せの地方分権になってしまうと、私は思っています。これは少し余談でしたけれども。
これからは、まず、市民の皆様方が、まちづくりをどうやって考えて決めていくのかということだと思います。自治というのは、自ら治めると書くわけですから、まず自らが考えて、自らが決定できるような、そういうまちづくりに、変えていかなければなりません。しかし、市民個人ではできませんので、できないところを地域のコミュニティなり NPO が補完していく、そして地域や NPO では補完できないことを、市がやっていく。そして、市ができないものを県がやり、県ができないものを国がやる。本来はこうでなければいけないはずです。
ヨーロッパ型の地方分権のまちづくりをやるためには、市が何かをやってくれるとか、市にお願いをする、そういう形ではなくて、市民がまず考える、そういう考え方に立たなくてはいけません。そのためには、当然、市民にもっと権限を渡していくことも必要です。そういうことをやっていかなくては、これから、もはや立ち行かない世界になっていくということだと思います。

ですので、このタウンミーティングで、これから皆様方と意見交換をさせて頂きたいのは、皆様方が、10 年後、20 年後、どういう千葉市にしていきたいと考えているかということです。
そのためには、千葉市に一体どういう特徴があって、強みがあって、魅力があるのかということも、もちろん見つめ直していかなくてはいけません。
それから、そのためにどういう分野に力を入れていくのか、先ほど言ったように、お金には限りがありますから、全部が全部というようにはいきません。どういうところに集中的に力を入れていかなければいけないのかということを、決めていかなければいけません。
それから、もう一つが、先ほど言ったように、行政が何でもやるというのは、もはや絶対無理です。ですから、市民の皆様方が、どれだけこのまちというものを支えていけるかが大事になってくると思います。地域社会の支えあいの文化が崩れていくとどうなるかと言うと、今までは支えあいを、市民の皆様方が普段の生活の中でやってきたわけですが、それを、最

近は税金を払っているからということで、行政がやって当たり前だということになっています。行政のコストは高くつくわけです。高くつく人にお願いをしているということは、ひいては、最終的に自分が一番損をしているということです。ですから、支え合いのコストを一体誰が払うのかということも、考えていかなければということです。

そういう市民が決めて支えるまちづくりにするためには、しかし、今の状態では無理ですから、行政はこういうことをやらなくてはいけませんよ、行政はこういうサポートをしていかなければいけませんよとか、行政の体質そのものを変えていかなければできませんよとか、そういうような話の中で、どれだけまちづくりを変えていけるかということが、これから10年後、20年後の千葉市にとっても、全国の自治体にとっても、大きなテーマだと思っております。

そういう観点で、ぜひ皆様方も、行政に対してこういうふうにやっていくべきだ、逆に、市民でこういうことができるから、こういうサポートをすべきだとか、そういうご意見を数多く頂戴して、基本計画の中で10年間かけてそういうまちに変えていきたいと思っておりますので、ぜひとも多くのご意見を頂戴したいと思います。

■意見交換

【原企画課長】

それでは、これからの時間は市長と来場者の皆様方の意見交換となりますが、できるだけ多くの皆様にご発言頂けますよう、大変恐縮でございますけれども、お一人様、ご意見は３分程度でお願いしたいと思います。30秒位前になりましたら、事務局から、こういう札を出させて頂きますので、話をおまとめ頂きますよう、お願いいたします。

あと、お名前を仰ってから、ご発言をお願いできればと思います。

それでは市長、よろしくお願いします。

【熊谷市長】

それでは、いろいろなご意見があると思いますので、最初に３名くらいまとめてご意見を伺って、私の方からお話をさせて頂きます。その際、１人目の方が仰ったテーマで、ある程度まとめていきながら話を進行していきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

では、お手を挙げて頂けますでしょうか。

【市民Ａ】

市長から説明された基本的な考え方について、賛成したいと思います。

ただ、まだ曖昧なところがあり、地方分権について言われたように、国から市町村に、ということですけれども、市民自治という意識とはまた若干異なるかなと、そこがまだ疑問として残っていて、この基本構想に、その点がどう活かされるのかな、という疑問があります。

その点については、最後のまちづくりのイメージということで、目指す姿が図式化されていましたけれども、やはり市民自治という考え方が基本になると思うんです。ただ問題は、今まで上意下達で進んできた行政と市民の意識が、変わっていなければ、それを達成するのは至難の業だと思うことです。他の市町村を見ても、その点で苦労されていると聞いていま

すけれども、具体的に、その基本的なところをどう進めようとしているのか、スタートのところで課題があるということです。

それから、具体的なことでは、100 万都市で一括に考えるのは、大変困難であるということです。だから、区単位での行政の進め方を、より具体的に、市民との接点を作っていくことが必要だと思います。区長の権限と責任を強めながら、区長主催の市民との交流を図るですとかが考えられます。

私が思うのは、今日も議員の先生方が何人かおられますけれども、やはり議会の流れというのがほとんどわからないんです。行政と議会の関係がどうなっているか、市政だよりを見ただけでは、読み砕くのは不可能に近いということでして、行政の中身を、区単位で具体的に、議会で何が問題になって、どういうことを市として決めたのか、どんなところが課題として残るのか、市民に何を期待するのか、そういったところを、区長の主催で、区単位の市民との交流を通じながら、より市民の意向を行政に反映できるシステムを作ってほしいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

広い意味においては、市民自治のための前提条件のお話だと思います。大きなテーマだと思いますけれども、ご意見のある方、お願いしたいと思います。

【市民 B】

市民自治のお話が出ていましたので、それに関連したことでは、1971 年に自治省によるコミュニティ政策が出たのはご存知ですよね。地域再生と、新しいコミュニティという組織の創設、これに重点を置きたいと考えてまいりました。多様な人たちを巻き込んだまちづくりをして頂きたいと思います。

ここで多様というのは、高齢者とか、外国人とか一人ひとりの人権まで含めれば、この次のタウンミーティングを越えた次の段階でお話が出てくることと思いますので、あまり詳しくは申しませんけれども、今言ったようなことで、新しい再生をして頂きたいなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

もう１人ご意見を頂いてから、お話をさせて頂きたいと思います。

【市民 C】

これからのまちづくりのことで、市長、それから他の方からもありましたけれども。

私は、市民自治の中で、議会も改革が進んでいると思いますが、議会が、もっと市民に向けて発信すること、顔の見える形で、思想信条にとらわれることなく、例えば、花見川区の議員さんが、例えばここに出席して頂いて、私ども区民と対話できるような、そういう企画も入れて頂けたらと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

やはり、市民自治の中で、上意下達の意識が変わらないと、というお話がありました。これは、だいたい、タウンミーティングで議論になるテーマなんです。確かに、陳情文化というのは、国だけではなくて、全てにおいて根付いています。そして、陳情で変えられたところもあるんです。かつては右肩上がりで、お金がありましたから。それができなくなってきているところに、変えなければいけないポイントがあるわけです。ですので、これを変えるというのが、10 年間の大きな挑戦だと思っております。

そうすると、自治会を含めた地域コミュニティが核になると思うんです。そのエリアの中で、そこに参画する人たちが入った組織を作って、いろいろなところで、今、まちづくり協議会とか、いろいろな組織が出てきていますが、その地域の自治会や NPO や PTA や、いろいろな人たちが入った、ある程度まちを支えるべき単位があって、その中でまちのことを考えて頂くような流れが、少しずつ地域に生まれていかなければだめだと思うんです。個人で考えろと言われたって、考えられないし、できっこないところもありますから。

そういう、行政組織でない、まちづくりを考える団体を、どれだけこれから地域に作っていけるかというのが問題だと思っていますし、サポートしていかなければいけないと思います。ここがたぶん、一番大きなテーマだと思っているんです。10 年間、20 年間かけて、そういう上意下達じゃなくて、対等の関係になるために、どういうことをしていかなければいけないのかと、そういう議論をしていかなければいけないと思っています。

それから、議会のお話が幾つか出てまいりました。二元代表制ですから、市長が直接何かを言うと議会への介入になりますので、あまり詳しくは述べられませんけれども、ただ議会改革も、議論はもう始まっております。議会こそが、本来は、10 億円以上かけて市民の意見を吸い上げて市に対して提言をする、本来の市民自治に基づいた、大事な組織でありますから、この議会が機能すれば、もっと市民のための市民自治が進むと思っておりますので、議会改革にも注目をして頂きたいですし、皆様方も、もっと議会に注目してほしいなと思います。傍聴をするには、議会は少し遠いですけれども、本当はもう少し議会でいろいろないい議論をしていますから、見て頂きたいな、と思っています。一番そこにコストをかけてやっておりますので、一番大事だと思っています。

それでは、またテーマを自由にいたしまして、ご提言を頂きたいと思います。

【市民 D】

まちづくりは人づくりから始まるのではないかと思います。そこで、極端に具体的な話になるのですが、実は心のノートというのを皆さんご存知ですか。残念ながら、民主党はこれを減らそう、あるいは止めようという話が出ているので、気になりまして、取り寄せて読んでみたんです。これが非常にいいという話です。

それでですね、なぜ人づくりかということなのですが、市長さんが仰いましたように、老人社会になり、65 歳以上の人が増えます。この方たちが、いかに社会に役立ってもらうか、ということが大事だという話がありました。

それと、職員の人材育成ということを仰いましたが、これもまさに人のことだと思うんです。人がどう思って社会に立ち向かうかによって、まちが変わってくるのではと思います。

そういう意味で、今まで戦後教育とは、どちらかというと、義務より自由、責任より権利を言ってきたと思うんですが、その弊害があちこちに出ていると思うんです。私は今日、にれの木台から歩いてきたんです。そうしましたら、あるところの壁に落書きを消したあとがあるんです。こういった話はこれまでに幾度もありました。これはまちづくりにとってマイナスです。そういうことから、人づくりをきちっとやらなくてはと思うんです。

それで、民主党が止めると言っても、心のノートを千葉市はぜひ続けて頂きたいと思います。これが 10 年後、20 年後の人間性に生きてくるのではないかと思います。

【熊谷市長】

個別のお話は置いてですね、それはまた別の議論としてやらせて頂きますけれども、人づくりのお話を頂いたと思っておりますので、関連する意見でも結構ですし、新たなテーマでも結構ですので、お手を挙げて頂ければと思います。

【市民 E】

子どもの環境のことでお話をします。千葉市は、子どもを育てるのにはとても魅力的なまちなので、もっと子どもに対する環境が整っていると、住む方も増えるのではないかと思います。保育園は今後もできる予定ですよね、幕張本郷に。条件も整ってきているとは思うのですけれども、小学校の子どもルームの環境が、まだ不整備なところが多いと感じます。

うちには小学生の子どもがいるんですけれども、西の谷小学校の子どもルームは、学校の外にありまして、とても狭いスペースに 39 人の子がひしめいています。学校から離れているマンションの一角なので、道路に面していて安全にも不安がありますし、水道やトイレが一箇所しかないという環境の中で、子どもたちは放課後を過ごしています。このようなことが改善されていけば、もっと働きたいお母さんも多いと思いますし、千葉市の魅力につながるんじゃないかと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

子育てというのは重要なテーマですので、これでいろいろな意見をお持ちの方にご提言を頂きたいと思います。

【市民 F】

セーフティウォッチャーをやって、今年で４年目になるのですが、月水金と小学校の門に立っています。その中で、まずあいさつから始めようということで、おはよう、さよなら、と声かけをしているのですが、あいさつをする学童が非常に少ないのです。だいたい、半分くらいしかいないんですね。それも、声が非常に小さく、人の顔を見ていなかったりします。

もちろん、元気にあいさつする子もいます。この間びっくりした例なのですが、小学校１年生が、「おじさんちょっと教えてよ」と言うから、何ですかと言ったら、「親孝行ってどういうことですか」と。これはびっくりしましたね。１年坊主くそ坊主と言われるけれども、君はよくそういう質問ができるね、って聞いたんです。親孝行というのは、これはおじさんの考えだから、またお父さん、お母さんに聞いてみなさいと言って、論語の最初に、「身体髪

膚、これを父母に受く、あえて毀傷せざるは孝のはじめなり」。こんな難しいこと言ってもわかりませんが、皆さんの体はお父さんお母さんからいいところを受け継いで、この世の中に生まれてきたんだよ、一番の親孝行とは自分に気をつけて、自分の皮膚、体、髪、それを傷つけない、自分自身の体を傷つけないことが親孝行の始まりなんだよと、そうおじさんは考えているけれど、君たちはわかるかなという話をしたんです。

それから、私は今年で79歳ですけれども、ウォッチャーには男性が非常に少ないです。もっと男の人が社会に出て、お母さんたちのヘルプをして貰えれば、ありがたいなと思います。

やはり人づくりは、子どもからですね。10年、20年後を考えたら、きちんとあいさつをしましょうというところから、始めて頂けたらいいのではと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

子育ては、非常に重要だと思っています。まず子どもが少なくなってくるわけですから、なおさら子どもを大事にしていかなければということと、それから、大事なことは、子どもに自覚を持って貰うということです。今、市民自治という話の中で、市民もまちづくりの主体だという自覚を、という話がありましたけれども、子どもも、今までみたいにお客様ではなくて、住んでいるまちに対して、どうやっていけばいいのかという自覚も、持って貰わなければいけないだろうということで、われわれは子どもの自治、子どもの主権、子どもが自覚を持って、責任を持ってまちで生きてもらうために、われわれも何ができるのかということを、今、考えているところです。

保育所、子どもルームも、個別論としてはもちろん充実してまいります。今までは確かに教育部局と市長部局の縦割りの中で、小学校に空き教室があるのに、なんで子どもルームが校外にあるんだみたいな、おかしな状況がありましたけれども、そういったものもなくすように、組織の見直しそのものに着手しております。

あいさつの話がありましたけれども、私はその中で考えていかなければいけないのは、まず、大人だと思うんですね。あいさつを大人がしなければ、いくらあいさつをしろと言っても、あいさつしないですよ。子どもがおかしくなっているということは、大人がおかしくなっているということだと思うんです。よく教育論の中で、学校で何でも直せると考えている人がいるわけです。そんなことないですよ。子どもは学校の中でしか生きていない、純正培養ではなくて、家で暮らして大人の社会を見ているわけですから、大人が変わらない限り、子どもは変わらないということを、大人が思わなければいけないです。

そういうことから、大人が子どもに見せつける社会をつくらなければいけない、と思います。大人がまず変わる。自治会とかいろいろなところで、まず大人があいさつをし合おうということをやらなければ、私はいけないと思っています。

そういう視点では、この前、中央区のタウンミーティングで言われたのですが、どこかのまちが子どもにアンケートをとって、大人の直してほしいところを大人に突きつけて、大人がある程度年数を決めて、ちゃんと直していくと、そういう話があったんです。そういうことも含めて、子どもが大人の姿の何を見てだめだと思っているのか、われわれ大人自身も変えて、自然と子どもも見習うような、そういう大人の道徳戦略と申しますか、計画のようなものを、持っていかなければいけないのかな、というのも強く思っているところです。

子どもでも構いませんし、それ以外でも結構ですので、意見を頂ければと思います。

【市民G】

子どもの教育のことで、２点申しあげます。

まず一点は、ディベートのできる子どもを育てたいということです。大人が声をかけると、固まってしまって、何の反応もなくなる子が増えていますので、小学生の社会科の授業とかで、議会見学をして、議員さんたちの白熱した会議を見ることによって、自分もディベートしてみたくなるような、そういったものを取り入れたらと思います。

もう一点は、今、政府が電子黒板というのを配置すると決定しているようですが、パソコンも小学生低学年とかなら、全然いらないと思っています。パソコンは、ウイルス対策とかメンテナンスとか、すごくお金がかかるので、なくなってもいいんじゃないかと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

子どもの教育のお話がございました。教育のことでご提言がございましたら、よろしくお願いいたします。

【市民H】

市民自治にも関することですが、主体者になるということは、なかなか一朝一夕にはできないことです。今ここに来られている方は、普段から考えていらっしゃる方だと思うんですけれども、やはり上意下達、上から言われたことをやっていくのが楽ですから、それでいいと思っている市民が多い中で、変えていくためには、若いうちから、そういう考え方をやっていくようにしておかなければいけないと思います。

先ほど、子どもの自治という話がありましたけれども、子どものうちから、私たちが住んでいる千葉のまちってどうなの、と、大人になっても住み続けたいよね、高齢者になっても住み続けたいよね、と思えるように、もちろん私たちも努力して変えていかなければいけないですけれども、これから千葉市を担っていく若い世代、子どもたちに、そういうことを実体験として考えていく取組みを、ぜひ実行してもらえればと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。仰るとおりです。

【市民I】

これから、千葉市は環境とか福祉とかの面で、市民の参加がすごく大切になります。それを子どものうちから、大人はこんなことをやっているんだよと、施設の職員とかでなくても、普通の市民がこういうことをやっているんだよと、まず知らせることが大切だと思います。

そして、自分たちも、例えば、ごみのことでこんなことやってみようとか、小学校レベルから、どんどんやっていく。そして、そういうことを通じて、じゃあ僕たちのまちはどうしたらいいんだろう、私たちのまちはこうだったらいいねとか、それを具体的な策にまで登りつめるような教育をしてくれれば良いと思います。

そしてまた、差別だとか、いじめとかいうことに対しても、他人の立場に立ったらどうだろうねとか、そういう人権教育もどんどん強化すると、いい大人に成長するんじゃないかと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、子どもの教育のお話です。意見を言える子どもということで、確かにそのとおりで、自分の意見をまず発信するということが大事になってきますので、議会に連れて行ったら良いということでした。実は、私は議員になる前、その活動をやっていたんです。別の市ですけれども、子どもたちを議会に連れて行って、自分たちのまちのことを考えると。子どもたちも、まちのごみの話、道路の話、信号の話は、身近に感じるはずですから、そういった身近な議論をしている市議会を見てもらうのが、本当は一番いいのではないかなと思っておりますので、議会とお話をしながらやっていきたいと思っています。

若いうちからそういう意識を、という話がありました。やはり、子どものころから自ら治めるという考え方に触れていないと厳しいと思います。私が今、話をしているのが生徒会です。学校というのは、生徒がある程度、生徒会で自治できるんですけれども、形骸化しているところがほとんどだと思うんです。物心ついて、最初に接する自治の組織が機能していないのを見てしまうと、自治というものが、あまり認識できないのではと思っているんです。だから、私は市立の学校に関しては、まず生徒会なり、そういう組織をもう少し実効性のあるものに変えていかなければという議論をしております。

それから、それとは別に、子ども市長というのがいるんですよ。なんとか子どもの自治をということで、子どもで議会を作ったり、子どもで市長選挙をして、子ども市長を決めています。そして、例えば市にはさまざまな審議会がありますが、その審議委員として入れてしまうとか、そういう形で、子どもの意見がちゃんといろいろな形で吸い上げられる、それを代表する人が、行政の中で公式に発言する機会を作っていくことが、最終的に子どもの自覚を促せるんじゃないかなということで、子ども環境学会とも連携しながら、子どもがまちを考えて、責任を持って発言できる場所を作っていくようなプロセスを、もっともっとこのまちで充実していこうとしています。

これは、日本ではまだそんなに試みがありませんから、千葉市をモデルケースにできるくらい、私は力を入れようと考えています。私は、一番子どもに年齢が近い市長ですから。未来の世代が責任を持って、まちを考えて発言していくまちなんだ、ということを全国に発信していきたいと思っています。

あと、大人がやっていることを伝えていくというお話もありました。教育の中では、地域の人がどれくらいまちづくりに携わっているかを、教えないんです。今の人たちというのは、税金を払ったら、まちのことはそれで終わりだと思っているわけです。でも、お金を貰っていない人が、どれだけまちを支えているかというのは、なかなかわかりにくいんです。ですから、こういうことについてもちゃんと伝えていかなければ、まちづくりは行政がやるものではなくて、市民がやるものなんだよ、というのを伝えていかないといけない、そういうところも包含して、子どもと接していかなければと思います。これは大きなテーマです。

それでは、もう一度自由なテーマで、ご提言を頂きたいと思います。

【市民 J】
千葉県香取郡多古町で、農業法人を経営しております。毎朝、東関道を使って 50 分かけて、通えるので、都市と田舎の両方を、毎日楽しみながら仕事をしております。
提案したいことは、地産地消です。千葉県は、野菜の生産量、出荷高ともに全国１位を誇りまして、また、香取郡周辺は、有機農業のグループが多い聖地と化しているところなんです。そういう、全国でも稀にみる特異な場所というポテンシャルを持ちつつ、また、消費地である都市に最も近い、大きな生産地であるという側面もあわせ持つわけです。
そういう素晴らしい環境があるのに、地産地消があまり実現できていないのが、非常にもったいないと思います。今、田舎では、直売所や道の駅ができて活気を呈しておりますが、それが都市にもあれば、平日も繁盛するのではないかと思います。
野菜を売りたいのではなく、野菜を通じて、まちづくりに貢献したいと思っております。直売所ができれば、都市と農村に交流が生まれて、住民同士の交流も生まれて、会話が生まれて、魅力あるまちづくりができるのではないか、と思っております。

【熊谷市長】
ありがとうございます。
千葉市は、千葉県という大きな農業王国の中の都市ですので、そういう魅力というのは、他市に十分発信していけると思っています。農業や環境でお話があるという方いらっしゃいましたら、ご提言をお願いします。

【市民 K】
大きな話ですが、私が娘のころは温帯地方でしたが、今は亜熱帯地方になっています。これはどんどん加速しており、この温暖化には、すごく心を痛めております。
市長さんは、まだ危機感がないのではないかと思います。今、この部屋の暖房は、22、3 度じゃないですか。こういう会合は 17 度くらいにしたらいかがでしょうか。
今どきの若い方は、部屋で暖房をかけ、Ｔシャツで過ごしているそうです。デパートは 24 度だそうです。17 度くらいにして、それでセーターとカーディガンで、ちっとも寒くありませんから、ぜひ、市長さんが催す会合くらいは、皆コートを着て、市長さんはジャンパーを着て、17 度でお願いします。

【熊谷市長】
ありがとうございました。他にご意見のある方、どうぞ。

【市民 L】
花見川区の道路の問題が、議会でたびたび話されていて、そんなに道路が大変なのかなという思いがあって、中央区から来ました。駅から北口に下りればわかるよと言われ、区役所に来るのに苦労したので、こういうことなのかなと思いました。。
もう一点は、農業の振興ということで、産業まつりを、卸団地だけでやりますよね。あれは、お祭なんだから、松尾町に行ったときに、市役所の前に売店があったりしましたので、

お祭として、区役所まつりにして、産業まつりがぐるぐると回って歩いたら、地産地消がうまくいくのではないかなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、農業についてお話を頂きました。仰るとおりでして、どれだけ交流を図れるか、それは顔の見える関係をどれだけ作れるかということだと思うんですが、そういう意味で、地産地消というのはわれわれも重要視していかなければと考えております。

道の駅には、いろいろな制度上の、調整区域じゃないとだめだとかいろいろ制約があって、やりにくいところがあるわけですけれども。われわれとしては、そういう中においても、なんとか市民と生産者の顔が見える関係を、それは市内で閉じるものではなくて、千葉県でもいいと思うんです。千葉県の都でもあるわけですから、そういう考え方に立ってやっていきたいと思います。どうしても行政は、市内で何とか完結しようという考えを持ってしまいますので、県内との接し方というのも大事だと思っています。

暖房は、仰るとおりだと思います。もう切りました。私もちょっと暑いなと思っているところだったので。配慮が足りず、申し訳ありませんでした。ただ弁護ではありませんけれども、市役所はほとんど暖房をつけていなくて、皆ジャンパーを着ながら仕事をしています。そういう感じでやっていますので。

それから、花見川の道路のお話と、産業まつりを区役所でやるというお話がありました。産業まつりは、中央卸売市場の活性化というのも目的としてやっているわけですけれども、あれとは別個なのか、どうなのかという議論をしながら、区役所だったり、千葉駅の近くだったりとか、市民に見えるところで、もう少し地産地消のお祭をやっていくというのは、大事なことじゃないかなと思っています。

ただ、これも行政がやるのかという話もあります。今、地産地消で露天市のようなものをやっている形もありますので、行政がやるのか、そういう朝市のようなものを地域のコミュニティがやっていって、その情報を行政が伝えていくのか、たぶん、そういうことに最終的にはなろうかとは思います。いずれにしても、そういうものがどんどん出てくることを、行政としてどうサポートできるか、という話だと思っています。

ではまた、自由なテーマでお話を頂きたいと思っています。

【市民Ｍ】

今回、タウンミーティングを開いてくださいまして、しかも１時間半くらいも質疑応答があるということで、非常にアグレッシブな企画で、素晴らしいと思っています。

テーマですが、財政の話をしたいと思います。市で、事業仕分けをやられたと、国では蓮舫さん中心にいっぱいテレビに出ていますが、それと似たようなことをやったということでした。私は仕事で行けなかったのですが、その中に市民が入れて、市民が質問できるようなシステムをとられたということで、非常に画期的な試みだったのではないかと思っています。

そういう中で知りたいのが、今回は 44 事業の仕分けをやられたということですが、それが予算の何パーセント分くらいなのか、ということです。千葉市は、財政的に公共事業がすごく大きな問題になっていると思うのですが、事業仕分けの中に、あまり公共事業に関連するものが入って

いなかったのですが、なぜそれを取り入れなかったのかということです。

それから、事業仕分けを受けて、これから市議会では予算を審議すると思うんですが、一部の噂では、市長の予算が通らないのではないかというような話も聞こえるんです。そこは市民がよくウォッチしないといけないと思っていますが、特に、市議会が否決するかもしれないと思っている予算、市長がこれは通したい、ここを市議会が嫌だと言ったら、絶対にそれはだめだとか、どこが争点と思われているのか、場合によってはわれわれ市民が、議会の解散ということも含めて、きちんとウォッチしていくべきだと思っているので、ぜひそのあたりのコメントを頂きたく思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

財政、事業の見直し、そういったものについてもしご提言がございましたら、お願いいたします。若い方は、全員財政のお話を仰るんですよ。それぐらい、世代間によって問題意識が違うのかなというのも感じております。

【市民 N】

財政健全化について、保有資産の有効活用、売却について、意見を申し述べます。

群馬県のみなかみ町に、高原千葉村というのがあるそうなんですけれども、そこは、過去５年間の利用者数が、平成 16 年から 20 年までで、平均年間３万 5100 人、稼働率が 41.2%。今の人口は 95 万６千人ですから、それから見ますと、3.7%しか利用していないんです。平成 19 年度の決算を聞きましたところ、収入が 3100 万円で、支出が１億６千万、赤字１億 2900 万ですね。何年に建てたかわかりませんけれども、建設事業費が 14 億 7500 万、用地取得が３億 9500 万、合計 18 億 7000 万です。

こういう施設は、市で持っていなくてもいいのではないかと、民間の施設を利用すればいいのではないかと思います。利用しているのは主に中学生らしいですけれども、月 1000 万も赤字を出しているなんて、ましてこれから児童が少なくなっている段階で、市としていいのか。ぜひ、事業仕分けなどで、ご検討して頂くようお願いします。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございます。もう一方、ご意見を頂きたいと思います。

【市民 O】

市長から脱財政危機宣言というのを聞いて、やはりこうなっちゃったんだな、と思いました。１兆を超えるような借金で、公債費比率も 25%になったら大変です。レッドカードが出たら、夕張市と同じになってしまいます。そういう意味で、市長さんが選挙に出たときの第一声を聞いて、若いけれども期待できると思って、当選を喜びたいと思っているんです。

どなたかも仰いましたけれども、事業仕分けの中で、公共事業があまり触れられていないですね。実際、千葉市は箱物行政と言われて、たくさんの施設を作ってきました。川崎製鉄の跡地ですが、川鉄さんも、いらなきゃ千葉市に返してくれればいいんです。だって、ただより安い値段で、埋立地を造成し、工業用水路を敷いて、港湾作って、大変な財政負担を千

葉市もしているんですよ。10年間、固定資産税を取らなかったり。よそを見ると、釜石なんか、いらなくなると地元にただで土地提供しているんです。私どもも、そうやってもらいたいと思ったら、サッカー場を作ったり、臨海公園を作ったり、いろいろなお金が出て行くという話です。

財政危機宣言を聞いたから、私も、市債を買いました。少しでもお役に立ったらと。ところが、公債を返済できなくなったら、私は高齢者ですけれども、食っていけなくなっちゃうと心配してます。

それからモノレールは、県がもう袖を振ったわけですから、県庁までできたら、あとはもう千葉市でやれよと、こんな馬鹿にした話ないわけです。市長は、モノレールの延伸を考えていないということですが、一番お金を使う公共事業に、大鉈というと何か怖いので、メスを入れて頂きたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、事業仕分けのお話です。この事業仕分けが国と少し違うのは、とにかく市民の方々が意見を言えるようにしたことであり、画期的だと自負しております。国の事業仕分けが終わってから、科学者の方が反対したということがありましたが、事業というのに、本当の意味で無駄なものはありませんから、穴掘ってすぐ埋めるような、そんな馬鹿なことをやっているわけではないので、誰かは必ず恩恵を得ているわけです。その受益者の方にも、どれだけこれで助かっているかという発言ができる機会がなければいけない、という思いから、今回、市でやった事業仕分けに関しては、傍聴の方も意見が言えるし、メールやファックスでも、意見を言えるようにしました。600件以上、メールやファックスだけでも来ております。

そういう意味でも、われわれの事業仕分けは、いろいろな意見を聞かせて頂いたと自負しているわけです。

その対象が、44 事業、６億強です。一般会計が 3300 億ですから、そのうちのごく一部です。ただ、3300億と言っても、市の場合はそのうち６割、７割とかが、自分で自由に動かせない、自動的に法律上出ていくお金ですから、それを考慮したらもう少し比率は高まるんですけれども、予算編成まで時間がなかったのも事実ですので、一番大きなところとして、今回試験的にやらせてもらったというのが実情です。

公共事業が入っていない理由は、民間の委員の方が、数時間ではとても一つ一つの公共事業の見直しはできないということで、今回は外しております。私が就任してから、公共事業は全て見直しをしておりまして、モノレールも止めましたし、ご意見にあった蘇我の話も、スタートに立ち返れば、私にも言いたいことはたくさんあるわけですけれども、もう契約してしまっているので、いろいろな思いがありながらも、やらなきゃいけないところが一部あります。

それは土地です。土地はもう、全部買いますという約束になっているので、知らないということはできないんです。ですので、そうは言いながらも、極力、支払いを待ってくれと、今、URが一生懸命、千葉市が土地を買い取ってくれる約束のもとで、土地を造成していますから、それを何とか、少しずつしか買い取らないということにして、後ろに倒しているような状況です。

蘇我のスポーツ公園は、今、テニスコート作っていますけれども、テニスコートも夜間照明をなくしたり、スタンドを撤去したり、いろいろと計画を縮小しております。それから、陸上競技場も作るとか、運動広場を作るとか、いろいろあったのを全部なしにして、野球グラウンドとして市民に貸し出したり、そういう、お金をかけない利用を考えています。

総事業費として20億円以上をカットしているのですけれども、土地を買うのだけは、前任の方々が決めてしまったので、どうにもならないというのが現状でございます。防災の拠点という位置づけもありますので、土地だけは買って、整備していこうということです。

公共事業に関しては、他にもたくさん、実は見直しをしております。われわれの中では見直しを徹底的にやっていますので、追々、市民の皆様方にも見せていけるんじゃないかなと思っております。

それから、市長の予算が通らないのではないかというお話がありました。これは非常に大きな問題で、たぶん、非常に厳しいと思っています。なぜならば、財政危機の中で、お金が異常に足りません。本当に異常なお金の足りなさです。3300億円の自治体が、270億円もお金が足りないというのは、ありえないです。リーマンショック以降の経済危機によって、税収が減っているというのも100億円くらいありますけれども、そんなことじゃないんです。千葉市が過去にじゃぶじゃぶ発行してきた、借金の返済のピークが、いよいよやってきているんです。その借金を返さないといけないですから。そのお金というのが、600億とかなんです。3300億の所帯で、借金返済で600億もとられちゃうわけです。

足りないから、500億くらい借金して、100億くらい減らすことでいいじゃないか、くらいに考えたいのですが、500億も借金できないんです。国が、財政健全化法で、千葉市みたいに危ない自治体はこれ以上借金するなということで、400億円くらいしか借金が許されていないんです。ということは、600億を返しながらも、400億しか借金できませんから、純粋に200億円足りなくなるわけです。今までどうしていたかというと、400億円返して600億円借金するという、つまり足りない200億円も借金でまかなっていたんです。それが、600、400が、400、600に逆転しているわけですから、都合400億も足りないわけです。どう考えたって成り立つはずがないです。

それだけ、この千葉市は、財政運営に失敗してしまったまちです。どうなるかというと、来年度の予算は凄まじいことになるんです。本当に私たちは、さっき申しあげたようにいろいろな努力をして、市民生活に影響がないように、必死にやろうとしていますけれども、ただ、市民生活には、絶対影響が出ます。出ないなんて嘘は、絶対に言いません。出ます、来年度、必ず。

そうなったときに、私は、議会としてこの予算を承認できないんじゃないか、という思いも確かにあります。議員も市民から選ばれている人たちですから、どうしてそんなひどい予算を承認したんだと言われるのは厳しいですから、予算を承認できないんじゃないかという思いも、一部あります。

ただし、予算が通らないとどうなるかというと、本当の意味で終わっちゃうんです。普通だったら、予算に反対をされたら、何がいけないんですかと聞いて、議会の意思に基づいて、市が予算を修正するんです。しかし、今回のような場合は、議会は反対しても、じゃあ何を直せばいいんですかといったときに、出せない可能性がありますよね。カットがだめだと言われても、じゃあこのカットをなくすには、どこかでまたお金をひねり出さなくてはいけな

いわけです。誰かを犠牲にして、誰かを救えという議論をしなければいけないわけです。だから、修正案を議会が言えない限りは、予算には反対できないわけですよ。それでは完全に無責任な反対になりますから、そんなことは市民が許さないはずです。ですから、おそらく、予算案のときは凄まじい議論になると思います。

ぜひとも市民の皆様方に、見ておいて頂きたいのは、われわれも今、事業仕分けも含めてあらゆる努力をして、極力、市民の皆様方に犠牲が出ないようにする、ただし、犠牲は少し出る、という予算を組ませて頂く予定になっています。そのために、今、英知を結集して作っています。私も全部見ています。ただし、それに対して議会がどういう意思をお示しになるかというのは、私もやってみなければわかりません。普通であれば、否決される予算だということも覚悟しています。

そのうえで、議会がどういう責任のもとで、予算に対して向き合ってくれるのか、それがこれからの２、３月議会で、見えてくると思っています。議会の方々も、財政が非常に危機だという認識は持っていらっしゃって、議会予算を縮減しようという議論をお始めになったようですから、私は、議会としても、責任が問われる２、３月議会になると思っています。

それから、保有資産の活用で、高原千葉村のお話がありました。確かに、市で施設を持たなくてはいけないのかという話は、当然出てきます。行ったときに補助をすればいいんです。社宅と同じように、今は社宅を持つよりも、住宅手当に切り替えているのと同じで、そういう形の方が、実は安くつくわけです。

だから本当は見直しをしていかなければいけない対象なんですけれども、高原千葉村を見直せない理由がありまして、それは職員、人なんです。その方々は、高原千葉村で雇って、みなかみに住んでいるんです。ということは、廃止してしまうと、現地採用の人たちが、千葉市役所で働けるかというと働けないわけです。向こうの役所で引き取ってくれないか、みたいな話をしているんですが、今はどこも人減らし中ですから、引き取ってくれないわけです。公務員は首を切れませんから、どうにかしないといけないわけです。だから、見直しができないんです。

こういうものが、行政は民間と違って、非常に難しいんです。なので、新規採用はしない、その方々がお辞めになっていくに従って、非常勤しか雇わない、そういう方々が全員引退して初めて、処分できるんです。今それに向けて、一年でも早くなんとかできないのかと、知恵を絞っていますし、現地の自治体の人たちとも相談しながら、何とかしようと思っています。

こういう例がたくさんあります。民間と違って、行政は、そういういろいろな事情を抱えていますから、すぐに方向転換できないんです。そういう苦しさを抱えながら、やっていかなきゃいけないぶん、手前、手前で判断していかなければいけないということです。切羽詰ってからどうこうしようとしても、行政には無理があるわけです。

財政危機宣言なんていうのは、本当は４年前に出していなければいけない自治体なんですよ、千葉市は。それを私が出しただけですけれども、パフォーマンスだと言われてしまうわけですよ、なぜか。やり切れないところが私自身もあるわけですけれども、そういう実情が、正直言って、あるのは事実です。

愚痴になってはいけませんから、前向きな話に戻しましょう。10 年後、20 年後のお話ですから。そうしましたら、またテーマは自由で、お伺いしたいと思います。

【市民 P】

基本理念として、人間尊重ということを掲げていらっしゃるんですが、これまでも話が出ました人づくりということでお話します。教育には、学校教育と社会教育という２つの面があるわけですが、知的環境の構築とか、千葉でもそういったことに力を入れているんですけれども、これからはやはり、市民が考える、調べる、企画する、自分の意見を述べる、という、こういうことが必要になってくると思うんです。

そういう意味で、学校では学校図書館が大切になってきます。これは子どもたち、10 年、20 年、あるいはもっと長いスパンです。私たち市民にとっても、市、区、あるいは議員さんがお話になっていることが、本当に妥当なのか、あるいはちょっと違っているのか、いろいろ調べてみて身に付けていく必要があるわけです。

その調べる機関として図書館のようなものがあり、資料が充実していて、調べて、判断をしていく、そういうことが、まさに人間尊重ということになるのではと考えております。何も調べる手段、手立てがない、そういう市民は市長のお考えになっている市民ではなかろうと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

どう市政やまちに関する情報を出していくのか、広報も含めたお話だと思いますけれども、そういう、情報の出し方なりについて、まずご提案を頂きたいと思います。

【市民 Q】

先ほどから市長さんもいろいろ仰ってますけれども、広報の話なのかなと思いますが、やはり透明性を確保して、どうやって市民に自覚を促して、どうやって市民参加の形にするのか、というところで意見を述べます。

市長さんも手段に使っているのは、宣言し、危機感を煽るというやり方だと思うんです。私もまだサラリーマンですから、管理職としての方法の一つと思うんですけれども。その中で、根底に流れるものは２つあると思います。一つは意識の問題、もう一つはプロセス、どうやってやるかの問題です。

意識の問題は、やはり危機感を煽るとか、そういう形のものです。言葉で言うと、「どうせ」「俺一人が」とかです。でも、本当は一人ひとりが意識を変えて、これは 10 年かけて取り組まれるということで、期待したいんです。

この辺を払拭するために、基本になるのは、今どういう状態にあるかというのを、あまねく市民に知らしめることだと思うんですよ。東京に働きに行っている方は、私もそうですが、平日は朝早く家を出て、夜にならないと帰ってこない。通勤にも１時間以上かかります。そういった中で、市役所とか議会とか、わからないです。

自分としては、市役所とか議会の休みを平日にして、土日はオープンしてほしいと思うんです。こういう機会に来られたのも、今日が日曜だからなんです。そういう方は、特に若い方々、働いている方には多いと思います。土日も普通に市役所も議会も開いていて、自由に参画できて。

いかに知らしめるかという点ですが、私自身、常に部下の者に知らしめるというので苦労していますが、「ほうれんそう」という言葉を、皆さんよく聞くと思うんですが、企業ではそういうやり方が、草の根的に一番効くので、そういった考えを持って取り組まれたらどうかなと提言する次第です。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

貴重なご意見頂きました。あとお一方から、ご意見を頂きたいと思います。

【市民R】

私は、千葉市の中央図書館、稲毛図書館、朝日ケ丘公民館の図書館などをよく利用させて頂いていまして、ありがたく思っています。ただ、中央図書館は別にしまして、それ以外の図書館の利用率は少ないですね。

それと、端末を中央図書館とか区役所に置いて頂いていますよね。私はコンピュータ関係の仕事をしていたものですから、それを使っていろいろな情報を見ているんですが、私以外に、この端末を使っている人を見たことがないです。これは、公開の場を作っているにも関わらず、使われないという例です。

実際、市民に知らせるのは何がいいかというと、やはり市政だよりだと思うんです。12月１日付でしたか、職員の人数を減少させている努力のことも出ていました。あれは、かなりの方がご覧になっているんじゃないかと思うんです。あれは今、月２回ですから、内容を増やすということになれば費用の問題もあるのかも知れませんが、やはり市政だよりの活用というのが、一番のような気がします。

【熊谷市長】

ご意見をありがとうございました。

図書館の充実というお話がございました。図書館というものを、単に本を借りるという場だけではなくて、もう少し地域の知の拠点という位置づけで、どう戦略的にできるのか、そこを考えていかなくてはいけないです。そこに、当然、市政の情報も伝わっていって、できればそこでまちづくりの、前のタウンミーティングでも言われたんですねが、まちづくりをしていくうえで勉強しなければいけないことが、図書館で勉強できるように、まちづくりコーナーみたいなものを作ってほしいというご意見がございました。

それから、透明性の話で、タウンミーティングも、土日にやらなければ意味がないということで、実施しております。全ての方が参加できるようにするのが、一番正しい姿です。

議会の話もございました。今日は議員の方もいらっしゃいますので、こういうご意見があったということで、ぜひ議会改革をやって頂ければと感じています。私も、議員に立候補するときに、そういうことは言っておったんです。議会を土日、もしくは夜間にやらなければだめだと。もしくは、市議会でやるんじゃなくて、もっと市民が来られるような場所に出張してやるとか、そういうことも考えていかなければいけないというお話はしました。議会改革協議会でも、議題の中には入っていたんです。まだそんなに議論していないと思いますけれども。

そういう意味では、市民の皆様方も、それぞれの議員の皆様方に、そういうご意見を伝えていって頂ければ、お考えも変わってくるんじゃないかなと思います。役所も、土日休みの方に、どうやって情報を出していくのかということも、考えていかなければと思っています。

とにかく、情報を伝えなければいけないということです。今まで、市政だよりは、イベント案内とか、そういうのが多かったんです。もちろんそういうのも大事ですけれども、肝心な市政情報が全然伝わっていなかったということで、今、市政だよりをご覧になっている方は、市長メッセージという形で、いろいろ状況をお話したり、たまに一面を使って、この前は財政のお話をさせて頂きました。初めてだというお話も頂いていますので、スペースの関係があるわけですけれども、なんとか市政の現状に関して、市民に伝えなければいけないことは伝えていくようにと考えています。

今度、ごみ問題に関して、連載記事を２月から始めました。単に、市民の皆様にごみ削減をお願いしますよ、だけではなく、他の市が、一体どういうごみ施策やっているのかとか、ごみにどれくらいお金かけているのかとか、どうしていかなければいけないのかとか、もっと市民の皆様方に、ごみ問題を主体的に考えて頂くための情報を出さないといけないと考えています。削減してください、お願いします、こうやるといいんです、みたいな手段ばかり言っていても仕方がないので、そもそも、なんで行政がそういうことをやろうとしているのかといった、理念、目的からちゃんと伝えなければいけないと考えています。

たぶん、それが今、一番、市役所の考え方で足りないところだと思うんです。お願いはよくするんですけれども、その背景となる理由について、なかなか伝えないんです。行政は、基本的に間違っていることをしているとは思っていないんですが、ただ、それをやる理由を説明しきれていないから、市民に落ちないんです。なぜそれをやらなければいけないのかという理由を説明し、行政の意識と同じ意識を、市民に持って頂かない限り、やっていることは理解されませんから、そういう意識で、なぜこういうことになってしまったのか、とか、なぜこういうことをやるのかという背景をしっかりと説明することが、私は遠回りなように見えて、一番近道なんじゃないのかなと思っています。

市政だよりもそうですし、他にもさまざまな形で情報発信する手段を、われわれは持っておりますので、ぜひ、いろいろな形でご提言を頂きたいと思います。市政だよりは、来年度から、市民の皆様方から編集委員みたいなものを募集したりして、市民目線での編集も考えようとか、いろいろ考えておりますので、皆様方もぜひ、市政だよりにこういう情報がほしいとかありましたら、ご提言して頂きたいと思います。

また、インターネットが使える方はインターネットモニターがありますし、インターネットが使えない方でも市政モニターがありますし、そういった形で提言できる場所もありますので、そういったところでも、ぜひ、ご意見を頂戴したいと思っております。

【市民Ｓ】

事業仕分けの市民意見ということで、お話させて頂いたのですが、一番早く、私が千葉市に変えて頂きたいのが、ホームページです。市民目線からすると、非常に分かりにくいんです。入って辿り着いたんですけれど、そこから先、わからない。非常に不便です。

それから、市の広報では、紙ベースでは市政だよりを中心にやって、他のお金をかけているフォトなんとかはやめて頂いて、多くの市民に伝える形が良いと思います。

それから、逆に市民の情報も、市役所が受けて返していくという双方向が、紙の上でもできるようにしてほしいし、インターネットでもできるようにして頂けたらなと思います。

とにかく、いろいろなことを調べたいと思っても、一発でなかなか行かなくて、あちこち飛んで戻って飛んでという形で、非常に不便なホームページだということで、なんとか作り直しをして頂きたいと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。時間ももう限られていますので、ここからは、テーマを限らずに、お三方ずつ頂いてお話をしていきたいと思います。

【市民 T】

耳が聞こえないので、いろいろ不便なことがいっぱいあります。

２つお話したいと思います。まず、幕張の駅の階段が高いんです。高齢者とか、やはり階段は大変なので、エレベーターがほしいと思います。もう少し低い階段でも、エレベーターやエスカレーターができている駅もあるんです。だから、エスカレーターかエレベーターを作ってほしいと思います。幕張の駅の階段については、もう５年前からそれを言っているんですけれども、なかなかそれが実現されないという状況にあります。

もう一つは、携帯電話です。手話通訳なんですが、急病になったときに、普通の役所が設置した通訳をお願いするんですけれども、その通訳に、携帯電話を持って頂きたいと思うんです。役所が設置した通訳だと、いないときもあって、急病のときに連絡ができないんですね。病院に行きたくて通訳をお願いしたいときに、いない時があるので、携帯電話を常に持つという、役所の方からそれを提供するという風にしてほしいと思います。

役所の設置の通訳に携帯電話を持ってもらうということと、駅の階段、エレベーターかエスカレーターを全ての駅に作ってほしいという、２つをお願いします。

【熊谷市長】

ありがとうございました。もう一方、お話しを頂きたく思っております。

【市民 U】

社会保障費についてちょっと聞きたいんです。

やはり一番切れないのが社会保障費なんですけれども、ここにメスを入れてもらいたいと思っています。なぜかというと、今回、補正予算で 28 億も計上しているそうなんですけれども、これに関して、１年間に生活保護の方が 1500 人増えているんですね。全部で 207 億円から 245 億円になると。これは、上昇率 13%なんです。普通の民生費を見ていくと、だいたい３％で計算してあって、平成 18 年から平成 37 年まで、年間３％で延びているんですけれども、生活保護費は 15%伸びていると。

こうなっていくと、社会保障費についても、切れないところで切らないと、財政破綻が来るのではないかということを言っておきたいと思うんです。市の見積もりがおかしいんじゃないかと思います。それで、無料宿泊所に 900 人近く入っていて、そこに問題があるにも関わらず、市が立ち入り調査できないと、そういうこともあってですね、千葉市は非常に基準

が他の市町村に比べて緩いんじゃないかということが言われています。支給が銀行振り込みなので、実態を市役所、区役所も捉えていない。特に、医療補助が多くて、生活保護費が一人あたり 200 万近くになっているということです。

これ、国民年金で食べている人は 70 万円で食べているのに対し、200 万円も支出しているわけですから、実際に本当に必要なのか、どこまで軽減できるのか、その辺の調査をしてほしいと。調査しないと、改善案も出てきませんので、実際に申請書類が出ているから認めるというのではなくて、その調査を一回やってもらいたいと思います。

それから、先ほど出た議会の問題です。10 億円のコストを議会にかけているんだけれども、メリットがあるのかと思います。今回の事業仕分けでも、議会は反対しているわけです。とにかく議員さんというのは、どんどん予算を増やしている、コストカットしないんですよ。自分たちの給料も減らさないわけです。

そういうことで、市の予算が非常に限られている中、思い切ってもらいたいと思います。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

まず、ホームページの話がありました。ホームページは、私もそういう仕事をしておりましたので、言い訳できないと思います。ですので、来年度見直しをいたします。ホームページには、けっこうお金がかかってしまうので、ちゃんと計画して、設計してやらなければいけません。市長に就任して以来、すぐ変えられていない理由は、そういうことで、今水面下でいろいろな調査をやっておりますので、なんとか早い段階で、もう少しまともなホームページにしていきたいと思っております。その時にはいろいろな形で、市民の皆さんの優先順位ですとか、そういったことを伺うこともあろうかと思っております。

今、若い人たちは、携帯でネットを見る時代ですので、その携帯のネットというのも、ちゃんと意識しないといけませんし、市民全員がインターネットを見られる訳ではないというのは、間違いないわけですけれども、しかし、今は結構年配の方でも、インターネットを見るようになっていますので、ホームページをちゃんとやるというのは大事なことだと思っています。

それから、幕張駅の話を頂きました。幕張駅のエレベータは、来年やります。全部できるのは、再来年になろうかと思いますけれども、再来年までには幕張駅は両方ともエレベータが設置される方向で、今頑張っております。携帯電話の通訳の話は、確かに仰ることは十分理解いたしますので、ちょっと考えさせて頂きたいと思います。

それから、生活保護費の話です。ここは厳しいところがあります。厳しい予算の中で、生活保護費が急増しているのは事実でして、これはこういう経済情勢の中で、失業保険、雇用保険でなんとかやっていた人が、雇用保険が切れて生活保護に転落している人たちが、たくさんいらっしゃるんですね。ここに関しては、まず一つが経済情勢ということ、それからもう一つが、国の制度ということがあります。

生活保護制度は、もう 50 年以上大きく変わっていないんです。今の時代に合わせて、国が生活保護制度そのものを変えてくれない限り、われわれはその法律の下で、適切に運用しなければいけないという、制度上、いかんともしがたいところが実はあるんです。そういうことの中で、こういうような予算になっているというところを、ご理解頂きたいなと思います。

それから、無料低額宿泊所という、結果的に生活保護を受けている方がお住まいになっている施設があるわけですけれども、ここに関しては、千葉市が甘いというわけではありません。むしろ、今は厳しめです。新聞でも、無料低額宿泊所の話が出ていますけれども、これは別に千葉市だけに限った話ではなく、全国の自治体で起きていることです。ただ、われわれの市内にある施設が取り上げられましたので、そういう意味では、対策を立てているところで、国に対しても、生活保護制度の見直し、それから、無料低額宿泊所の制度そのものの見直しを求めていますし、今、説明も求められております。

そういうことでは、国に制度の見直しをしてもらって、なんとかそういう、貧困ビジネスと言われているものをされないように、われわれとしてもやっていきたいと思っています。われわれもできる中で、例えば、通帳を本人が管理することを徹底するとか、そういう対策は立てておりますので、ご理解を頂きたいと思います。

それから、議会のことです。仰っていたのは、たぶん、シルバー健康入浴の件ですね。廃止という結論が、事業仕分けでは出たわけです。ちなみに、シルバー健康入浴をご存知の方ってどれくらいいらっしゃいますか。結構いらっしゃいますね。そのシルバー健康入浴というのは、高齢者の方々に外に出て頂きたいですとか、独居老人の方々に外に出て頂きたい、そういうことを支援するということで、毎週１回ずつ市内の銭湯に無料で入れる券を、年間54枚くらい配っている、総事業費が年間６千万円くらいの事業です。

これについて、外部の評価委員は、廃止すべきではないかということでした。花見川区は比較的銭湯がありますから、もらった人は行けるんですけれども、銭湯がない区というのがありますので、そういった意味でも不公平ではないかとか、いろいろなご指摘があって、別の形に変えた方がいいと、独居老人の方々に外に出て頂く施策には、もう少し有効なものがあるのではないかと、いうことで、廃止という結論を下されたわけなんです。

それに対して、そうは言っても、やはり楽しみにされている方はたくさんいらっしゃいますので、何とか残してほしいという請願が、主に自民党の方々が署名をして、議会にあがってきました。そしてこの前、見直しは必要だけれども残さなければいけない、という意思を全会一致で、議会がお示しになりました。議会の意思というのは重いです。市民全ての意見ということになるわけですから、議会が全会一致で決めたということは。ですので、われわれはその意思を重く受け止めて、予算編成に反映しなければいけない責任が、義務がわれわれには一つ課せられてしまったなと思っております。

予算案では、似たような話がたくさん出てきますので、どう議会から言われるのかというのは、ちょっと、やってみないとわからないです。シルバー健康入浴でこういう形になってしまうということは、財政危機の自治体ですから、たぶん、このような話が数十個くらい出てきてしまうんでしょう、正直言って。

われわれは、その中でも本当に救わなければいけない人を救うことを最優先に、医療とか介護とか、そういうところを守りたいんですけれども、やはり痛みがともなうのも事実ですから、予算案は相当厳しいことになるでしょう。議会がどう判断されるかは、やってみないと、私たちにもわからないという状況でございます。

それでは、たぶん、これで最後になると思いますので、お話を伺いたいと思います。

【市民Ｖ】

幕張に 80 年以上住んでいます。先ほどのエレベータの件に関連してですが、幕張は 80 年間、同じままなんです。昭和 40 年代に、区画整理で前の松井さんだとか荒木さんだとか鶴岡さんだとか、やっていましたが、全然できていないわけです。で、10 年後にどうなるかと言うと、予算がなきゃ全然だめですから、そうすると今までのような状態のままということです。

そうすると、メッセという魅力のある施設を作っておきながら、田舎のローカル線のような駅のままということになりますし、エレベーターつけたって無駄ですから、駅自体を壊せばいいんです。検見川は立派です。だけれど幕張という土地は、ものすごい不便なんです。

【市民Ｗ】

私も幕張にずっと住んでいますけれども、幕張駅の周辺整備が、非常に進んでいないということです。総武線沿線の中で、一番寂しい駅が幕張ですけれども、その周辺がバスも入らない、消防車も入らない、救急車も入らない時がありますので、もしひとたび火事が起きたら、大災害が起こるのではないかと思うほど、非常に厳しい状況にあるわけです。

そこが、一向に、一部の地権者のために変わっていないというところが、非常に心配なんですね。そういうところは、やはり市の方から、ある程度リードしてほしいというのが、私の願いであります。本当に一部の地権者のために、何回やっても、区画整理が全然進まないというのが現実なんです。駅裏側も、一応計画は決まっているけれども，

いつ終わりかわからないということで、全然、駅前ができていない状況でございますので、幕張駅周辺の区画整理の問題を、ぜひ市がリードしてほしいということをお願いしたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

それでは、他の方のご提言をお願いしたいと思います。

【市民Ｘ】

稲毛、検見川の土地区画整理事業についてですが、今回は 10 年後、20 年後のまちづくりということですので、その中で区画整理事業は、非常に大事な事業だと思うんです。

市の公式発表では、区画整理事業は 60％くらい終わっていると言いますけれども、一番難しい問題を後回しにして、簡単なところだけやって、今、現実に残っている土地は処分できないという感じです。言葉は悪いですけれども、これは、市の犯罪じゃないかと思うんです。土地を持っていても、どうしようもないんです。売るに売れない。

片方で、基盤整備も全然されていないと困りますので、その基盤整備を先行してやって頂きたいと思います。箱物とさっき仰いましたけれども、歩行者道路などというものを作っていますけれども、そうじゃなくて、一番基本的な基盤整備事業が大切で、今、現実を見ていますと、例えば電線の地中化とか、そういうこともしていなくて、今、電柱がどんどん立っている状況でひどいです。10 年後を見据えた規格のものを作っていないと思います。

ぜひ、基盤整備を先に、区画整備事業による基盤整備を進めて頂きたいと、これを強くお

願いします。

【熊谷市長】
ありがとうございます。
そうしましたら、あと１名ですので、若い方をご指名させて頂きたいと思います。

【市民Ｙ】
全国に対して発信できる、本市の魅力とか強みって何だろうと考えてみました。都市っぽいところも少しありますけれども、田舎、自然が多くて、花見川なんかもそうですけれども、人のつながりがまだあって、昔っぽいところが本当はとても素敵で、ほっとできるところだと思っています。地方から来た方も、そう言って、千葉のことを評価してくださるんですけれども、来てみないと良さがわからなくて、千葉なんて住みたくないっていう、同年代の東京に住んでいる方が、たくさんいらっしゃいます。
それで、最近公民館の地元を学ぶ講座なんかに参加させて頂いたりして、花見川の周辺のまち歩き、自然とか、花見川の歴史とか、あたりの小さな文化財を見てきて、とっても価値のあるものが多くて、面白いんです。楽しいんですね。そういう会では、いろいろな年代の方とも交流ができます。とても有意義でありがたいと思っていますし、そういった文化財に表示なんかを立てて、皆が歩いて楽しい、健康にもなれるし、晴れ晴れとして楽しいと思えることは大事だと思います。
ただ、先日、千葉市を美しくする会で、稲毛から検見川まで歩いたときに、やはりとっても有意義で、全国一というものがたくさんあって、誇らしいなと思ったんですけれども、そこで、入浴剤とボールペンを頂いてしまったのが、この財政難の中、すごく悲しかったんですね。資料もすごく素晴らしかったので、参加費は無料でなくて、多めでもこういうものは参加したいと思いました。
それで、私は、千葉市に住んでいる一人ひとりが、市の親善観光大使のようになって、市のことで、人口、情勢、成り立ち、地理、歴史、文化、自然と、まちに対しては皆詳しい人になれたら、素晴らしいのにと思います。そのためには、やはり情報を得て、自ら勉強をすることが大事ですので、図書館とかそういうことの整備も、財政難は承知しておりますが、お願いしたいと思っています。
それで、住んで歩いて安全で、あいさつが皆さんできて、楽しい、面白いって思う、そういうまちになっていきたいですし、それから千葉市は、外国人もすごく多いって聞いていますので、地域に根ざした国際交流ということで、本部は小さくていいですから、国際交流プラザではなくて、地域の公民館や小学校で、日本語ボランティアですとか、外国人の方と、お互いに交通費をかけないで、地域で交流できるような形に持っていって、住み続けたい素敵なまちにこれからもしたい、なってほしいと思っています。

【熊谷市長】
ありがとうございます。最後、非常に前向きなお話を頂きました。
まず、幕張駅の区画整理の話です。このことについては、本当に、私自身も、仰ることのように思います。区画整理は、行政が約束したわけです。そこに対して、市民の皆様方もそ

の対象になっている方々も、そうなるんだという前提で、人生設計された方もたくさんいらっしゃるわけです。本来であれば、こういうものこそ、率先して先にお金をかけて、完成させなければいけない責務が行政としてあると思っています。

そうした中で、結果的には、千葉の場合は成田空港の問題で、収用委員会が長らくなくて、一部の人が反対をしてしまうと全く進まない状況の中で来てしまって、収用委員会ができたと思ったら今度は財政難で、全然予算が付けられないという状況です。同じように、区画整理が止まっている地区がたくさんあります。

私自身もそういう思いですから、何とかそこはやりたいわけです。が、こういう状態の中で、今工夫をしているという、先ほど申し上げたとおり、公共事業に関してメリハリをつけて何とかやりたいと思っています。苦しい中でも、何とかやりたいと。決して軽視をしているわけではありませんので、これからは特に、何とかやれる中では、一番重視してやっていきたいと思っていますので、ぜひともご理解をして頂きたいなと思います。問題としては、十分、認識をしております。

それから、最後の方のお話です。仰るとおりで、千葉市の魅力というのは、大都会、95 万以上の都市でありながら、非常に田舎っぽさがあるところです。私はそういう土っぽいところが、非常に好きなんです。私もいろいろなまちに住んで、ここが非常に魅力的なんです。そういう田舎くささですとか、人情の熱さというんですか、そういうところを私はもっともっとアピールしていくべきだと思っています。ところが、田舎の人というのは、良いところを当たり前だと思っていて、あまり外に発信しようとしないんですよね。

私も東京にもいましたし、東京に住んでいる同期や同世代の人がたくさんいますから思うんですけれども、千葉に住むということを、彼らは考えないわけです。私がよく言っているのは、埼玉に住むくらいだったら、海がある千葉に住むべきだろうと。こっちの方が飯はうまいんだぞと、言うわけです。ところが、中央線の沿線とかで住むところを探すわけですよ、東京に住んでいる人って。それで、東京の奥の、国分寺とか国立に行ってしまうんです。なんであっちに行くんだと思うんですけれども、それはやはり、千葉の住みやすさとか、魅力をアピールし切れていないからだと、私は思っています。

私は、この千葉市の魅力は、住だと思うんです。住むのに、これほど適したまちはない、と。東京にも行けるし、海にも行ける。いろんな意味でここは、住むために必要なものは全部持っている市ですから、これからは、市川や船橋ではなくて、あえて千葉に住みたいんだとやってくる人たちを、どれだけ作っていけるかが勝負だと思っています。そのためには、われわれもアピールしていかなくてはいけないし、仰ったとおり、市民の皆様方も、もっと自分たちの住んでいるまちの魅力というものを感じて、新しく来た人たちに教えてあげるような、そういう市内での発見を積み重ねていくことが、やはり大事だろうと思っています。

あと、外国の方が２万人以上、千葉市には住んでおります。非常に多いです。そして成田空港に一番近い政令指定都市は、この千葉市ですから、そういう意味では、国際都市にならなければならない、なれる魅力を持っているまちですから、そういう意味での魅力を、われわれももっとアピールしていかなければと思います。仰ったとおり、どかんと中心にセンターを作るのではなくて、もっと地域で、市民の皆様方でそういう活動できるような環境を整えていくことが、われわれにとって一番大事だと思います。

この前、市民アンケートをしたら、国際的な都市、国際活動をやりたいという人が、昔よ

りむしろ減っちゃっているんですね。そこだけが何故か落ちていて、幕張メッセを作ったときの熱が、少しずつ薄れているのかなという気がしてますので、先ほど申し上げたような立地ですから、国際的な魅力も、私はアピールをしていきたいなと思っています。

すみません、時間を過ぎてしまいました。

【市民Z】

私は、43年前に千葉市に来ました。千葉市の発展をずっと見てきました。

それで思うことは、ここに写真を持ってきましたが、ここは、幕張メッセを中心とした地域です。43年前は何もありませんでした。潮干狩りをしていました。私の娘が砂遊びをした写真があります。それが、どうなっているのこれは、というくらいな、すごいポテンシャルのある、さっき言ったような大きな人口になってきたわけです。

そこで、私は思います。私は、宮崎県は都城の出身です。話題の宮崎県ですね。ここから300 キロから 400 キロ遠い宮崎県です。東国原県知事は、私の中学校、小学校の後輩です。これが大変なことになってきましたね。今や、いろいろな意味で宮崎県が有名になってきました。また、長峯という都城の市長は31歳でなりまして、今34歳ですけれども、うちも若い市長でした。それがまたすごいことになってきているんですよ。そこで、思うんですけれども、今日はいろいろな話が出ました。素晴らしいことですね。ずっと気になっていたことが、熊谷市長が来たことによって、なくなりました。

先ほどの方も仰いましたけれども、地産地消の問題では、ものすごいポテンシャルのある県です。また、市でもあります。県には 36 の市がございます。私は機会があって、15 都市の商工会議所を回ったことがあるんですけれども、千葉市のことは、市川とか松戸とか、そういうところは、思っていないんですよ。どうか勇気を持って、千葉市を活性化して頂きたいと思います。あなたが仰ったように、千葉市民の目線でやるということ、党派とかそういうことに関係なく、私たちは絶対支援しますので、よろしくお願いします。

【原企画課長】

それでは、お時間も過ぎておりますので、市長に、最後にまとめのあいさつをお願いします。

【熊谷市長】

本当に、多くのご意見を頂きまして、ありがとうございます。

今回は、千葉市にとっても初の試みでございましたけれども、建設的な意見も数多く頂きまして、本当にありがとうございます。冒頭にも申し上げたとおり、これはあくまでスタートですので、これで終わりではございません。これから１年半かけて、皆様方も周りの方々とお話をして頂きながら、また、われわれもさまざまなものを用意いたしますし、用意していないところでもいろいろな形でまちづくりのことについて、お話もして頂いて、また、ご活動も頂いて、なんとか１年半後には、誇れる計画と、そして誇れる意識のもとで、このまちを、もう一度、一緒になって、さらに素晴らしいまちにしていく第一歩を踏みしめたいと思っておりますので、今後とも皆様方のご意見と、そして地域でのご活動もお願いして、今回お礼のあいさつに代えさせて頂きます。

本当にありがとうございました。

■閉会

以上